

なみよせみやけだ いせき  
7. 波寄三宅田遺跡

所在地：福井市波寄町

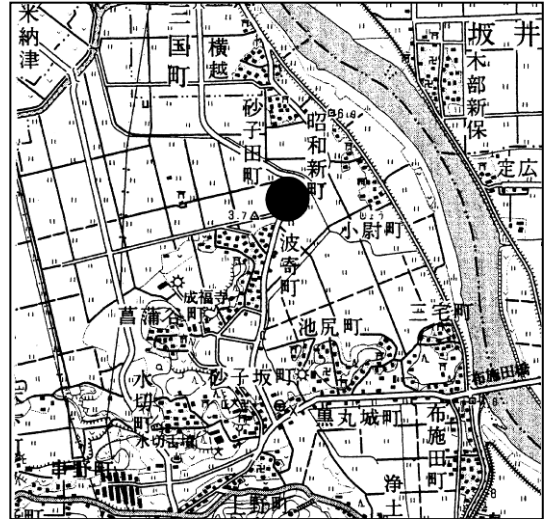
調査原因：一般国道 416 号道路改良工事

調査期間：平成 22 年 7 月 1 日～12 月 28 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：5,870 m<sup>2</sup>

時代：縄文・弥生・平安時代、中世



位置図 (S = 1/50,000)

**調査の概要** 波寄三宅田遺跡は福井市の北西部に位置し、九頭竜川左岸の水田地帯に立地します。遺跡の範囲が広いとため、調査対象地は長大なものとなりました。このため、県道を境に東側を 1 区、西側を 2～5 区に区分して調査を実施しました。

**遺構** 県道以東の 1 区では、溝 1 条、方形周溝墓 1 基、井戸 1 基、土坑 3 基などを検出しました。溝 S D 1 は幅が 1.2m 前後、深さ 0.8m 前後をはかり、溝内からは弥生土器が多量に出土しました。この S D 1 は、県道を挟んだ 2 区においても検出しています。方形周溝墓は、3 条の区画溝のみを検出しました。約半分が調査区外にかかりますが、一辺が 10m 前後をはかる周溝墓と推定されます。埋葬施設は検出されませんでした。周溝内からは弥生土器が出土しています。井戸 S E 1 は、板組の井戸枠を設けていました。井戸枠は、底面に板材を敷き並べ、その上に両端に切り込みをいれた板材を方形に組んで構築しています。出土遺物から、S E 1 は平安時代の井戸と考えられます。また 1 区の南東端では、下層において縄文時代の河川跡を検出しました。河川跡からは、縄文土器や石器が多量に出土しました。

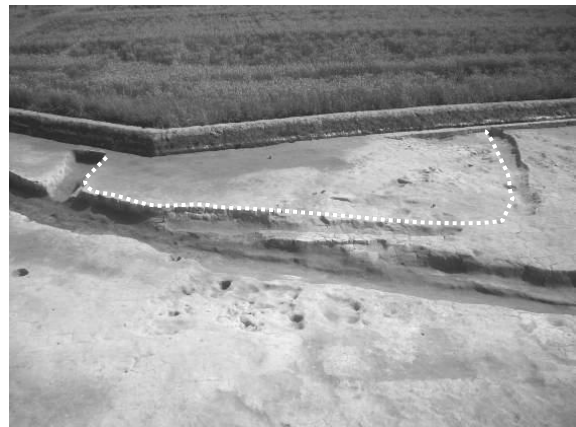
県道以西の 2～5 区では、掘立柱建物 18 棟、井戸 16 基、大型の土坑 5 基などを検出しました。掘立柱建物の時期は、出土遺物から平安時代と推定されます。掘立柱建物のうち、3 区で検出した S B 3・S B 4、5 区で検出した S B 1 などは、柱穴の長軸が 1m 前後をはかる大型の建物です。3 区の S B 3 では、西側に庇を設けていました。井戸では素掘りの井戸もありますが、板組の井戸枠や底部に曲物枠などを設置したものも検出しています。3 区の井戸 S E 5 は、板材を縦に組んで井戸枠を構築しています。出土遺物から、S E 5 は中世 (鎌倉時代) の井戸と考えられます。5 区の井戸 S E 2 も板材を縦に組んだ井戸枠を持ちますが、井戸枠の基礎として板材を井戸枠底部の周囲に敷き並べていました。なお、遺物の出土が僅少であるため、S E 2 の時期は明確ではありません。

**遺物** かつての圃場整備に伴う削平のため遺物包含層は失われており、遺物は柱穴や井戸などの遺構、そして河川跡から出土しました。遺物として、縄文時代後期の土器・石器、弥生時代後期の土器、平安時代の須恵器・土師器、さらに中世の土師皿・陶磁器類などが出土しています。井戸からは、漆器椀・箸・折敷・下駄などの木製品も出土しています。

**まとめ** 今年度の調査により、遺跡の中心となるのは県道西側の2～5区であり、弥生時代から中世の集落が広範囲に展開していることが判明しました。集落の中心となる時期は平安時代で、掘立柱建物を中心とした集落が形成されていました。さらに、掘立柱建物が整然と配置されている様子から、計画的に建物が構築されていたことが分かります。加えて、建物の規模が大きいことから、一般的な集落とは考えがたく、公的な機能を有していた集落であった可能性もあります。  
(清水孝之)



1区 全景



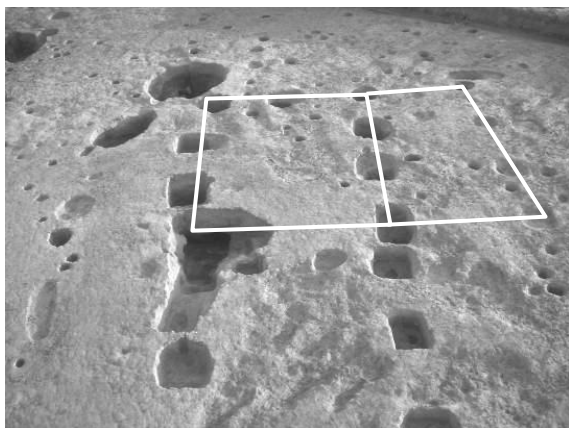
1区 方形周溝墓検出状況



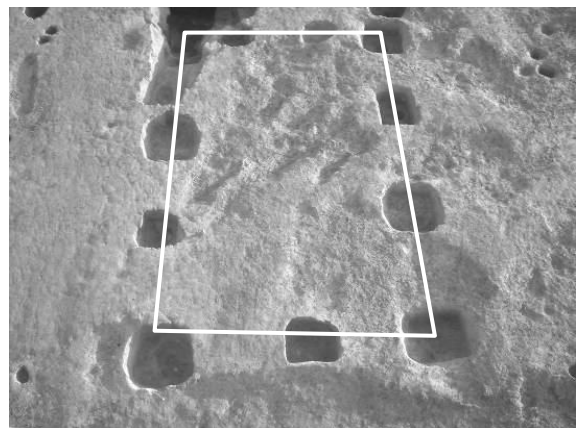
1区 井戸SE1底部施設検出状況



5区 井戸SE2検出状況



3区 掘立柱建物SB3検出状況



3区 掘立柱建物SB4検出状況